

平成 28 年度 P D C A サイクルづくり支援事業 C 調査全県集計結果及び分析報告

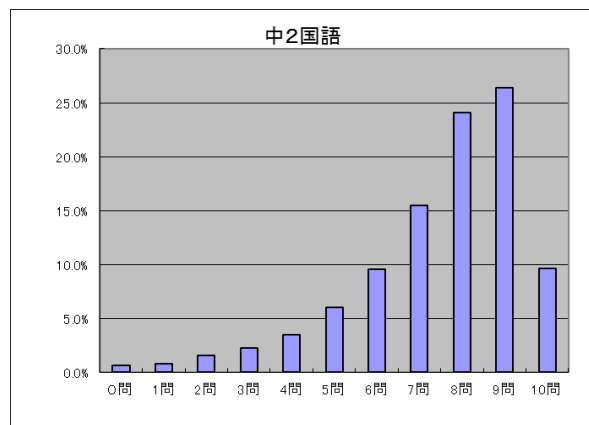
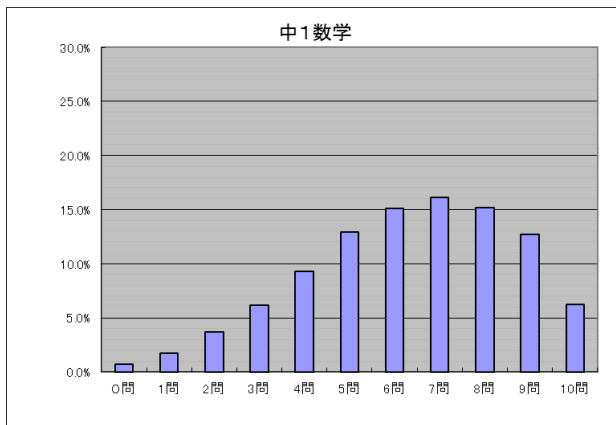
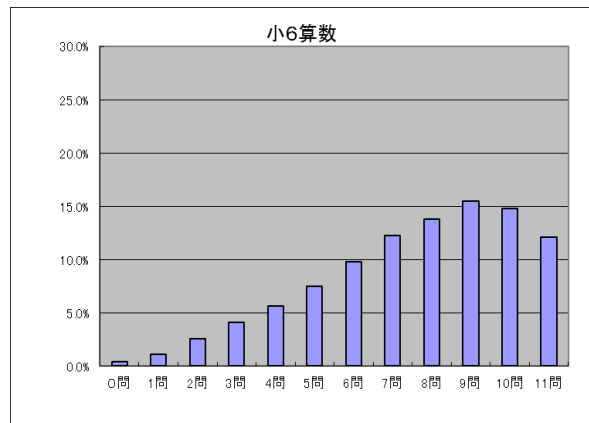
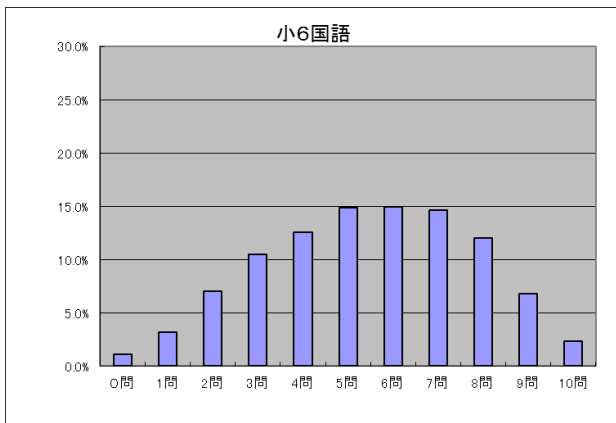
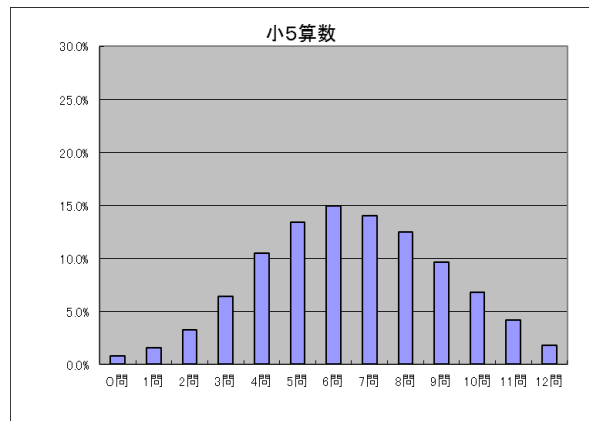
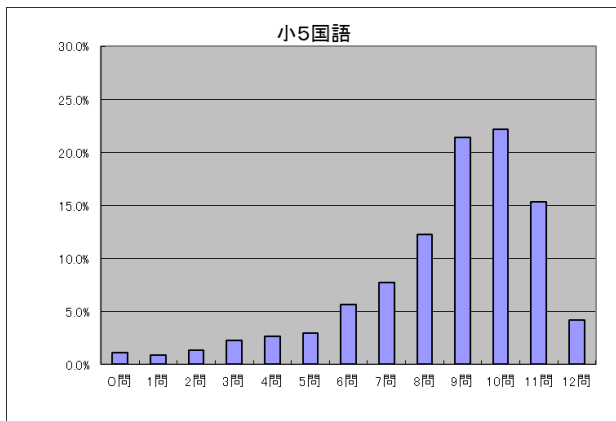
教学指導課

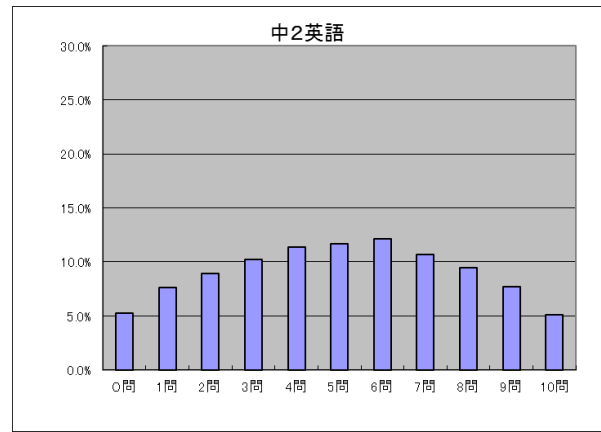
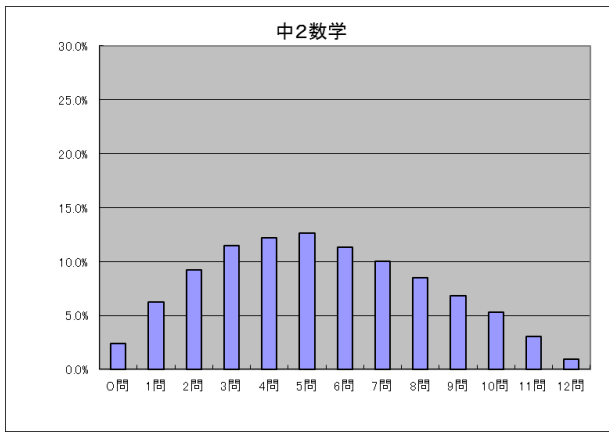
1 調査教科及び調査した児童生徒数 上段：参加人数 下段：参加校数

	国語	算数・数学	英語
小学校 5 年	14,839 人 (80.5%) 314 校 (86.5%)	14,840 人 (80.5%) 313 校 (86.2%)	
小学校 6 年	6,873 人 (36.3%) 160 校 (44.1%)	6881 人 (36.3%) 160 校 (44.1%)	
中学校 1 年		13,914 人 (74.3%) 158 校 (86.3%)	
中学校 2 年	14,476 人 (75.0%) 159 校 (86.4%)	14,224 人 (73.7%) 159 校 (86.4%)	14,426 人 (74.7%) 162 校 (88.0%)

(参考：全県 小5 18,434 人、小6 18,945 人、中1 18,717 人、中2 19,306 人、小学校 362 校、中学校 183 校、義務教育学校 1 校)

2 正答数の分布グラフ (単位%)





3 正答数の分布 (単位 上段：人、下段：%)

	0問	1問	2問	3問	4問	5問	6問	7問	8問	9問	10問	11問	12問
小5 国語	162	136	197	335	390	442	832	1148	1822	3173	3292	2273	619
	1.1	0.9	1.3	2.3	2.6	3.0	5.6	7.7	12.3	21.4	22.2	15.3	4.2
小5 算数	125	235	488	952	1551	1987	2221	2079	1857	1435	1011	619	265
	0.8	1.6	3.3	6.4	10.5	13.4	15.0	14.0	12.5	9.7	6.8	4.2	1.8
小6 国語	79	221	484	720	864	1020	1025	1007	825	469	160		
	1.1	3.2	7.0	10.5	12.6	14.8	14.9	14.7	12.0	6.8	2.3		
小6 算数	31	74	179	281	387	517	675	843	950	1066	1018	833	
	0.5	1.1	2.6	4.1	5.6	7.5	9.8	12.3	13.8	15.5	14.8	12.1	
中1 数学	97	238	517	855	1297	1799	2099	2247	2116	1767	863		
	0.7	1.7	3.7	6.1	9.3	12.9	15.1	16.1	15.2	12.7	6.2		
中2 国語	89	115	231	331	510	873	1379	2244	3487	3818	1399		
	0.6	0.8	1.6	2.3	3.5	6.0	9.5	15.5	24.1	26.4	9.7		
中2 数学	342	889	1307	1628	1735	1800	1606	1423	1212	970	749	429	135
	2.4	6.3	9.2	11.4	12.2	12.7	11.3	10.0	8.5	6.8	5.3	3.0	0.9
中2 英語	752	1097	1284	1476	1637	1685	1747	1542	1362	1104	731		
	5.2	7.6	8.9	10.2	11.3	11.7	12.1	10.7	9.4	7.7	5.1		

4 各問の正答率（単位％） ◇活用に関する問題、そのほかは知識に関する問題

小5 国語	1①	1①	1②	1②	1③	1③	1二 ◇	2一 ◇	2二 ◇	太田	三村	今井
	89.8	85.2	88.2	77.8	89.4	87.5	51.6	16.7	30.2	80.5	77.4	81.6
小5 算数	【1】 (1)	【1】 (2)	【1】 (3)	【1】 (4)	【2】	【3】 (1)	【3】 (2)	【4】	【5】 (1)	【5】 (2)	【6】 ◇	【7】 ◇
	79.8	88.9	71.9	80.4	47.8	15.8	50.3	28.8	49.0	71.5	24.9	38.8
小6 国語	1一	1二	1三	1四 ◇	2一	2二	2三	2四 (1)◇	2四 (2)◇	2五		
	65.2	56.2	54.8	34.0	46.9	58.9	54.2	47.8	61.2	66.8		
小6 算数	【1】 (1)	【1】 (2)	【1】 (3)	【2】	【3】	【4】	【5】	【6】	【7】 (1)◇	【7】 (2)◇	【7】 (3)◇	
	70.0	69.1	70.8	66.1	73.2	69.8	57.3	76.3	90.4	85.5	30.1	
中1 数学	【1】 (1)	【1】 (2)	【2】	【3】	【4】	【5】	【6】	【7】 ◇	【8】 ◇	【8】 (2)◇		
	83.6	85.9	68.3	60.3	65.4	20.8	43.0	80.2	73.6	50.7		
中2 国語	1一	1二 ◇	1三 ◇	2一	2二 ア◇	2二 イ◇	2二 ウ◇	3一 ◇	3二	3三		
	89.3	29.6	85.3	70.7	87.6	79.1	74.0	90.6	71.8	69.5		
中2 数学	【1】	【2】	【3】	【4】	【5】	【6】	【7】	【8】	【9】 (1)◇	【9】 (2)◇	【10】 (1)◇	【10】 (2)◇
	23.3	20.6	55.6	43.5	75.0	21.9	63.7	63.1	25.4	62.2	33.4	48.3
中2 英語	【1】	【2】	【3】 太陽	【3】 林檎	【3】 兎	【4】	【5】	【6】 ◇	【7】 ◇	【8】 ◇		
	57.3	64.8	62.3	68.4	72.0	61.1	37.7	27.8	24.4	27.2		

5 知識に関する問題と活用に関する問題の正答率（単位％）

	小5国語	小5算数	小6国語	小6算数	中1数学	中2国語	中2数学	中2英語
知識に関する 問題	84.1	58.4	57.6	69.1	61.0	75.3	45.8	60.5
活用に関する 問題	32.8	31.8	47.7	68.6	68.1	74.4	42.3	26.5

活用に関する問題の平均正答率が低い教科が多い。特に、記述式の問題の正答率が低い傾向が見られる。次項から示す各教科・学年の課題と指導改善の方向を参考にして、授業改善を進めていきたい。

知識に関する問題では、一部で定着が不十分なものが見られる。C調査問題は、今年度の学習内容なので、補充・補完指導を速やかに行い、児童生徒が確実に理解できるようにすることが必要である。確かな理解を深める授業を行っていくとともに、クリア問題、レビュー問題等（総合教育センターホームページ「学びの広場」参照）を活用して、さらに確実に学習内容を定着させることが必要である。

6 各教科・学年において課題となる問題と指導改善の方向

(1) 中学校1年数学

【5】 正答率 20.8 % (平成28年度P調査 19.9%)

① 課題

文字の値が整数のときに、式の値について考察すること。

・主な誤答例

0を解答に入れていない誤答が16.9%。

② 指導改善の方向

この調査を受けた生徒への補充・補完

H24 全国学力・学習状況調査:A $\boxed{2}$ (3)

レビュー問題:中1 ① 2-6

これから学習する生徒への指導

中学校1年

・教科書P12 「正の数・負の数」(整数の理解)

P54 「文字の式」

整数、自然数について、互いに比較しながら整理しましょう。特に0は整数であることの確認もしましょう。式の値については、例えば、 -4 は $4 \times (-1)$ 、 0 は 4×0 というように $4 \times (\text{整数})$ の形で表すことができるので、 -4 や 0 は、 a を整数とするとき式 $4a$ で表すことができる数であることを確かめる場面も考えられます。同時に、 1 は $4 \times a$ を満たす整数 a がない($1 \div 4$ の商は整数にならない)ことを比較して理解を深める場面を設定することも大切です。

【6】 正答率 43.0 % (平成28年度全国学力・学習状況調査 44.8%)

① 課題

一元一次方程式の解の意味を理解していること。

・主な誤答例

x に解を代入して得られた式の値の6を、方程式の解としてしまった誤答が37.4%。

② 指導改善の方向

この調査を受けた生徒への補充・補完

レビュー問題:中1 ③ 1-1

H22 全国学力・学習状況調査:A $\boxed{3}$ (1)

これから学習する生徒への指導

中学校1年

・教科書P82 「方程式とその解」

様々な数を方程式の文字に代入して、それらが解であるかを検討する場面を設定し、方程式の解の意味の理解を図りましょう。方程式の解とは方程式を成り立たせる文字の値であることを踏まえ、6は x の値が3のときの両辺の式の値であることを理解することも大切です。

(2) 中学校2年国語

1 二 正答率 29.6%

①課題

話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たすこと。

- ・二つの意見に共通する「本に対する興味」という内容でまとめていない生徒が約30%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成26年度全国学力・学習状況調査A 1 二 55.2%

③指導改善の方向

- ・話し合いにおいては、発言者の考えやその理由が参加者に明確に伝わるようにすることが重要である。そのために、司会は発言の意図を問い返したり、必要な発言を促したりするなど、状況に応じて役割を果たすように指導することが引き続き大切である。

授業では以下の点を大事にしましょう。

☆話し合いの際、司会者が以下の役割を意識できるように指導する必要がある。

- ①話し合いの目的を明確にすること
- ②参加者それぞれに発言の機会を与えること
- ③必要に応じて発言の内容を確認したり不足している情報を聞き出したりすること
- ④話し手や聞き手の様子を見て、次にどのような話し合いを進めるか判断すること
- ⑤話し合いの内容を整理したり結論を確認したりすること

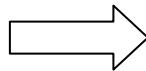
☆話し合いには、意見を広げる場合や意見を一つにまとめる場合などがある。その話し合いの目的に応じて方向を捉え、司会の役割を考える必要がある。

- ・意見を広げる題材の例
「身近でできるボランティア」
「身近な言葉遣いの問題点」 など
- ・意見を一つにまとめる題材の例
「修学旅行のグループ別コース」
「学級文集のテーマ」 など

☆話し合いの様子を記録した動画を見て、課題を把握する。

話し合いの動画は、日常の学級活動や委員会活動での話し合いを記録したものを活用することが考えられる。また、教師が作成したシナリオを生徒に演じさせたものを録画して活用してもよい。

補充・補完指導をしましょう



チャレンジ問題：中2 6月

2一 正答率 70.7%

①課題

段落相互の関係を理解し、文章の展開を捉えること。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

・平成25年度全国学力・学習状況調査B¹一 72.3%

③指導改善の方向

- ・説明的な文章を読む際には、論理の展開の仕方を理解するために、段落相互の関係を踏まえて各段落の役割を捉えることが大切である。各段落の役割を考えて読むことで、論理の展開が捉えやすくなる。指導に当たっては、指示語や接続語など、各段落の始めの言葉に注意して読むだけでなく、段落の内容を短く要約して前後の段落と比較し、関係を捉えることなどが考えられる。

・授業では、次のような言語活動が考えられる。

- ①説明的文章を読み、内容を紹介するQ&Aを書く【第1時】
- ②互いのQ&Aを検討し合い、文章の内容を正確に理解する【第2時】
- ③グループで「Q&A集」を作成する【第3時】

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題:中2 5月

3三 正答率 69.5%

①課題

語句や文の使い方に注意して、伝えたい心情にふさわしい言葉に書き換えること。

- ・「忘れないようにしよう」を表す表現を適切に書き換えることができない生徒が約10%いる。
- ・無解答の生徒が約7%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

・平成26年度全国学力・学習状況調査A¹二 80.1%

③指導の改善の方向

- ・推敲の場面では、伝えたい事柄を明確にした上で、それにふさわしい表現になっているか吟味することが重要である。随筆などを推敲する際には、「楽しい気持ちになった」「悲しい気持ちになった」などの直接的な表現だけでなく、読み手の想像力を喚起し印象深い表現になっているかどうかという観点から見直すことも大切である。

授業では以下の点を大事にしましょう。

☆文章を書く際

様々な文章から、効果的な心情の描写の部分を抜粋して整理し、自分が文章を書く際の参考とするなどの学習活動が考えられる。

☆グループで書いたものを読み合い、意見を述べ合う際

- ・書いたものを読み合い、意見を付箋に貼る。
- ・友だちの意見から新たに気付いたことをワークシートに書く。

補充・補完指導をしましょう

クリア問題:中2 11月

(3) 中学校2年数学

【1】 正答率 23.3%

① 課題

文字の値が整数の時に、式の値について考察すること。

- ・主な誤答例 0は $3a$ で表すことができないと考えたり、整数に0が含まれないと考えたりして、 -2 と64のみを解答した誤答が23.3%ある。

② 指導改善の方向

この調査を受けた生徒への補充・補完

レビュー問題: 中1 ② 1-3

H24 全国学力・学習状況調査: A2(3)

H27P調査: [1]

これから学習する生徒への指導

中学校1年

- ・教科書P63「式の値」

1は、 $3 \times 0 + 1$ というように $3 \times (\text{整数}) + 1$ の形で表すことができるので、 $3a + 1$ で表すことのできる数であることを確かめたり、 $3a$ が3の倍数を表すことから、 $3a + 1$ は、「3の倍数+1」を表す式であることを確かめたりする場面を設定するなどし、文字式の理解が深まるようにしましょう。

【2】 正答率 20.6%

① 課題

数量の関係を文字に表すこと。

- ・「倍」という表現が含まれることから、「 $a \times \frac{3}{7}$ (cm)」と立式し、「 $\frac{3}{7}a$ (cm)」と解答した誤答が57.2%ある。

② 指導改善の方向

この調査を受けた生徒への補充・補完

レビュー問題: 中1 ②-1-1

レビュー問題: 中1 ②-1-2

H27 全国学力・学習状況調査: A2(2)

これから学習する生徒への指導

中学校1年

- ・教科書P61「文字式の表し方」

数量を文字式に表す学習では、関係を図に表したり、具体的な数や言葉を使った式を利用したりして関係を捉え、その関係を文字式に表す活動を取り入れましょう。その際、割合を含む関係を文字式に表す場合は、基にする量と比べる量の区別をつけて関係を捉えることができるようにしましょう。

【6】 正答率 21.9%

① 課題

証明の必要性和意味を理解すること。

- ・主な誤答例 実測や操作など帰納的な方法による説明と演繹的な推論による説明の違いを理解していないために、「①は証明できており、②は2つの直線の交わる角度をいろいろと変えて同じように確かめれば証明したことになる」を選択した誤答が31.2%ある。

② 指導改善の方向

この調査を受けた生徒への補充・補完

レビュー問題: 中2 ④-2-1

H25 全国学力・学習状況調査: A $\frac{8}{8}$

H28 全国学力・学習状況調査: A $\frac{8}{8}$

これから学習する生徒への指導

中学校2年

- ・教科書P108「証明とその仕組み」

図形の性質を使って事柄がいつでも成り立つことを説明する場面では、帰納的な方法による説明と演繹的な方法による説明を比較しながら証明の必要性和意味についての理解を深められるようにしましょう。

【9】(1) 正答率 25.4%

① 課題

事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明すること。

- ・主な誤答例 解答類型9の反応率が26.4%ある。この中には、文字式の計算を間違えたと思われるものが含まれている。また、無解答率は30.6%である。

② 指導改善の方向

この調査を受けた生徒への補充・補完

チャレンジ問題: 中2 ① 5月

チャレンジ問題: 中2 ② 6月

H25 全国学力・学習状況調査: B $\frac{2}{1}$ (1)

これから学習する生徒への指導

中学校2年

- ・教科書P26「文字式の利用」

事柄が成り立つ理由を、構想を立て、根拠を明確にして説明できるように指導する場面では、適切な形に式を変形することとともに、示すべき根拠を明らかにした表現に説明を改善するなどの活動を取り入れましょう。

(4) 中学校2年英語

【6】 正答率 27.8%

①課題

本文の内容について、簡単な質問を理解し、Yes か No を使って適切に答えること。

◆解答類型（参加生徒 14,426 人中 4,169 人の集計）

1◎	No she didn't と解答しているもの	1,041(人)	25(%)
2	No～と解答しているが、主語が she でないもの	212	5.1
3	No she～と解答しているが、最後が didn't でないもの	73	1.8
4	Yes ～と解答しているもの	1925	46.2
9	上記以外の解答	240	5.8
0	無解答	677	16.2

◎解答として求める条件すべてを満たしている正答

- (i) 「Yes, she did.」と解答している生徒が約 46%いる。質問の意味が捉えられていない、または下線部③の次にある「They had no manners.」に着目し、Penny が快く思っていないことが理解できていない、などの理由が考えられる。
- (ii) 無解答の生徒は約 16%いる。【7】は 29%、【8】は 33%と無解答率が上がっていることから、時間内に最後までたどり着かなかった生徒も一定程度いると予想される。また、正答数の分布グラフにある 0 問と 1 問の生徒を合計すると、約 13%の生徒がいる。これは、他の教科と比較しても突出しており、依然として大きな課題である。

②指導改善の方向

Point!

(i)の課題に対応して

- wh-疑問文とその応答に慣れるため、毎時間帯学習として定型文が書かれたワークシートを用いた生徒同士の口頭練習の場を位置付ける。
- 授業では、本文には明確に書かれていない内容を問う質問や推論を伴う質問をする。その際、生徒の捉え方や英語表現を肯定的に受け止めながら、文法的に正確な表現となるように指導する。
- 定期テストでは、過去のPC調査問題やクリア・チャレンジ問題等を活用して、本文には明確に書かれていない内容等を問う問題作成を行う。

(ii)の課題に対して

- 初見である程度まとまりのある英文を読む力を高めていくために、授業では、教科書以外の文章に触れる機会を意図的に設定する。例えば、ALTが本時扱う内容についての意見や新情報等を文章化し、それを資料として活用することなどが効果的である。
- 「英語は楽しい」と思えることが何よりも重要である。そのためには、繰り返し指導すべきことは指導すると同時に、生徒が「分かった」「できた」と実感できる場面を設定し、教師がその姿を確実に見とどけることが大切である。

補充・補完指導をしましょう

H28年P調査：【8】

【8】 正答率 16.4%

①課題

文と文のつながり (cohesion) に注意して書くこと。

【正答の条件】

- ㊦「行きたい国」と「旅行先でしたいこと」の2つの内容が書けている。
- ㊧主語と動詞のある文法的に正しい英文が書けている。
- ㊨国名や動物等の固有名詞以外の単語に綴りのミスをしていない。文末にピリオドがある。
- ㊩文と文のつながりなどに注意して書いている。

㊦、㊧、㊨を満たしている生徒が8.5%、㊦、㊧を満たしている生徒が3.0%、先の2つ以外であるが、内容的に理解ができている文が書かれている生徒が17.5%いた。またそれら以外の解答の生徒が21.7%、無解答が33.0%いた。

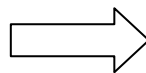
英作文では問題の条件を理解した上で、以下にある Point!に基づき答えられるように指導する。また本問題に限らず、英作文には特に時間がかかるため、生徒各自にテスト中の予定所要時間を考えた上で、取り組むことも勧める。

②指導改善の方向

Point!

- i 単語や表現
 - ・国名→教科書で扱われた国や、ニュースで話題の国を中心に綴りを紹介
 - ・「～したい」→I want to play soccer on Saturdays.など例文の暗記
- ii 構想
 - 【選んだ国でこそできることは何かを、整理した上で文章化】
 - 可能な範囲で根拠となる事実を組み込むことによって、論理的文章構成になるよう促す。
- iii つながり
 - 【but や because などを除き、特に接続詞を使わない文章構成】
 - 英文同士がどんな内容でつながっているかについて、注目するよう促す。
 - 〔例：平成28年度高等学校入学者選抜学力検査 問1(1) No.2〕
 - This is a map of my town. There is a park in the north, and our school is in the south. I sometimes run in the park. When I get hungry after running, I often get something to eat at the convenience store near the park. It's between the post office and the hospital.
 - 場面となる「私の町」を伝えた後、以上の複数の下線部分から、「公園」「走ること」「コンビニエンス・ストア」と、話題が英文同士でつながっていることがわかる。
 - 教科書の本文を扱う際にも、英文1つずつの意味を理解するだけでなく、複数の英文における内容のつながりについても考えられるよう、生徒に促す。
 - 例えば、段落は1つの大きなテーマで構成されていますので、文意を捉える

補充・補完指導をしましょう



過去に同じねらいで出題された問題

H27年P問題：【10】

H27年C問題：【10】